

平成30年度 事業報告書

社会福祉法人金太郎の家

デイサービス金太郎の家	地域密着型認知症対応型通所介護事業所さざんか 地域密着型通所介護事業所やまぶき 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所
金太郎の家 障がい福祉サービス	居宅介護、同行援護事業所 日中一時支援事業所
麦の家	就労継続支援B型・生活介護事業所 相談支援事業所
金太郎の家福祉移送サービス	一般乗用旅客自動車運送事業所 有償運送事業所
金太郎の家	集いの場 有償ヘルパー事業所

平成 30 年度事業報告

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

社会福祉法人金太郎の家

I. 総括（法人全体）

（1）法人のミッションに向けて

誰もが尊厳をもって、いきいきと暮らせる地域社会づくりの一助となることを願い活動を行った。病気や、障がい等の困難を抱えた方々の人権が守られ、住み慣れた地域において、その人らしい生活が継続できるように支援を行った。

当団体は設立 20 年を迎え、法人の事業の見直しと、法人の中長期計画の策定を目指したが完成をみていない。継続して取り組み、全職員参加による中長期計画の策定を目指し、法人の歩むべき方向を探っていきたい。

（2）経理規程の変更への協議

平成 30 年 9 月 25 日に行われた法人監査にて、経理規程のサービス区分についての指導をいただいた。現在、社会福祉事業として 5 つのサービス区分と公益事業 1 つとしているが、指導により事業ごとの収支がわかりやすいように、指定事業ごとを基本とした 8 つのサービス区分に変更し、居宅介護支援事業は公益事業にすることとした。経理規程の変更、それに伴う定款の変更に向け協議を行った。

（3）麦の家での事業が、本格的にスタート

H31 年 1 月に麦の家が完成し、2 月に就労継続支援 B 型事業所を移転、また、生活介護事業、特定相談事業所も新たに開設し、今年度より本格的に始動させた。

就労継続支援 B 型の平均利用人数は、前半 4 月～8 月は、9 人台であったが、9 月以降は定員を満たすようになり、活気が出てきた。作業としては、自動車部品の組み立て、包装やラベル張り等の室内での軽作業、屋外作業として、ネギ収穫の補助作業、出荷箱の組み立て、空港や駅の清掃作業等の委託を受け行っている。自社オリジナルの姫茶、命茶の製造販売も少しずつ販路が広がってきた。工賃については、何とか 5000 円台に上げることができた。

生活介護については、前半が 3 人台、後半は 4 人～5 人で、曜日による増減がある。微増はしているものの、まだ定員を満たしていない。

様々なハンデを抱えた方が利用されており、研修会を開いたり、スタッフ間で話し合いを重ねたりしながら支援に取り組んできた。まだまだ課題は多いが、ご利用者の方とともに一歩ずつ前に向かって歩んでいきたい。

（3）ケアの質の向上に向けて

よりよい支援にむけて、次のような取り組みを行った。

① アセスメントを深く行い、かつての職業、経験、得意なこと等を活かした活動に取り組んでいただくように支援した。認知症型デイサービスでは、門松作り、木工作業によるベンチや踏み台作り、花や野菜の栽培、事業所のフェンスの修繕等日常生活に結び付いた活動に、特に男性のご利用者が熱心に取り組まれていた。

② 集団から個別支援に向けたケアへの取り組み

デイサービスや生活介護において、集団からできるだけ小グループ、あるいは個別での支援に取り組んだ。高齢者のデイサービスでは、誕生日の方に、希望を聞いて近くの喫茶店等へ出かけ、ゆっくりお話を聞かせていただくなど、個別に対応する時間を持ようにした。春秋の遠足も一度に全員で出かけるのではなく、ご希望を伺い、小グループに分けて出かけた。出雲大社や堀川遊覧、また、初めての企画で魚釣りなども喜ばれた。

③ 自宅での生活に結び付いた個別リハビリの取り組み

理学療法士が中心となり、自宅を訪問し、その生活の中で、自立範囲を広げていけるよう個別リハビリの取り組みを行った。運動などの機能訓練だけではなく、食事作りや盛り付け、ショッピングセンターでの買い物など実生活と結びついた機能訓練を重視して行なった。

⑤ 実地指導を受けて

今年度は、訪問介護（9月11日）、就労継続支援B型・生活介護（12月3日）、認知症対応型通所介護（3月8日）に実地指導があり、現在行っている事業内容を見ていただき、指導を受けた。ご指摘いただいた事項は改善しケアの向上につないだ。特に、本部厨房から麦の家への食事の運搬方法については、食品を2重の容器に入れ密閉性を保つこと、運搬車両の消毒、運搬職員の服装など改善を図った。

⑥ 運営推進会議、第三者委員会の開催

地域密着型事業所として、ご利用者、ご家族、地域の方、有識者、市役所高齢者福祉課、あんしん支援センターからご出席をいただき、4月と10月に運営推進会議を開催した。利用状況、事故ヒヤリハットの報告等の他、テーマを決め、4月は『食事への取り組み』、10月は、『地域との交流について』各担当者からパワーポイントを使って説明を行った。これに対して、出席者の皆さんからさまざまなご意見やアドバイスをいただき、サービスの向上に生かすことができた。

④職員研修の重視

全職員が、年間の研修計画を作成し、それに向けて外部研修会に参加するなど、自己研鑽に努めた。今年は特に外部研修への参加が多く、職員の資質向上に役立った。

また、毎月の職員会時にテーマを定めて研修を組み込むようにした。外部講師を招いたり、職員がパワーポイントを作成して研修を行う、外部研修で学んだことを発表するなど、全職員で同じテーマについて学び、考えることができた。

（4）利用状況及び運営状況

法人全体の年間総利用件数は、29,660件で、昨年に比べ193件の増、事業収入は、174,507千円で11,890千円の増であった。一方事業活動支出も増え、164,311千円であり、事業活動収支差額は、10,195千円、当期資金収支差額は60千円となった。

事業ごとに見ると、老人デイサービス事業は全体で、昨年に比較し 150 件の増で 10,380 件、収入は、101,797 千円で、約 290 万円の増。介護保険の通所介護は 153 件約 200 万円の増、居宅介護支援が 48 件 93 万円の増、有償デイは、51 件 5 万円の減であった。

介護保険事業は一般型、認知症型とも順調であったが、冬場の 1 月、2 月、3 月に体調を崩される方が増え利用が減った。また、今年の特徴として、総合事業の利用者が増えたことも挙げられる。昨年の子供、総合事業と比較すると、109 件の増である。

居宅介護支援は、年度途中より職員を増員したこともあり、昨年度より利用件数が増えた。職員の体制を整えることにより、初回訪問は、2 名のケアマネで訪問する、情報を共有し担当ケアマネが不在でも対応ができるようにするなど、サービスの質の向上を図った。

自主事業として行っている集いの場などの有償デイは、ご利用者が高齢となられ介護保険に移られる方もあり減となったが、新規で利用される方も増えている。

高齢、障がいの訪問事業及び福祉移送部門については、昨年に引き続き老人訪問 234 件、福祉移送が 1,020 件の減、合わせて 250 万円の減収となっている。訪問介護を行う職員の不足により、希望されても受けられない状況がある。在宅生活にとって欠かせない重要な事業であるが、今後の方向性について考えていくことが必要な時期に来ている。

障がいデイサービス（就労継続支援 B 型、生活介護）の延べ利用人数は 4,132 人で 1,340 人の増、収入は 31,871 千円で 13,676 千円の増であった。生活介護事業が始まったこと、就労継続支援 B 型の利用が伸びてきたことによる。当法人の新たな柱となってきた。日中一時支援の延べ利用人数は 1,162 人で、学童の学校の終業時から家族の迎えまでや、祝日、長期休暇中の利用等があった。詳細は、後述する。

（5）地域の中の社会福祉法人として

地域の中の社会福祉法人としてあるべく、次のような地域交流、地域貢献活動を行った。

① 地域交流行事

今年度も 8 月に「夏休みこどもクリーン活動&交流会」を開催。地域の子供たちの参加があり、荘原駅の清掃活動の後、金太郎倶楽部の方々との交流を行った。6 月にはおちらとウォーキングを開催した。地域の方や視覚や身体に障害のあるの方々等に参加いただき、伊波野公民館周辺の史跡を巡り古に思いを馳せた。12 月には、麦の家にてクリスマスコンサートを開催。地元の方や、ご利用者のご家族等 70 人余りの方がご参加下さり、山陰フィルハーモニーの方々の木管五重奏に聞き入った。

その他、地域の行事、荘原コミセン祭りや道の駅イベントへも参加させていただき、交流をもつことができた。

② 介護の集いの開催

介護の集いを今年も年 3 回開催した。当事業所をご利用のご家族だけではなく、地域の方も参加下さり、一緒に思いを語り合う等活動できた。特に第二回目は、荘原コミセンとの共同企画として認知症をテーマとした映写会を開き、予想以上の 150 人の方々に参加していただき、介護について共に考える機会となった。

③ 斐川社会福祉法人地域貢献活動への参加

「斐川社会福祉法人連絡会」の社会貢献活動として、地域のサロンへ参加させていただき、一緒に体操をしたり、認知症や、リハビリについての話をさせていただいたりした。地域のサロンに出かけることで、法人職員も学ぶところが多かった。

④ 一人暮らし応援隊（くまの風呂敷隊）の活動

くまの風呂敷隊の活動として、月1回の買い物支援や、弁当の配食、まめですか訪問を行った。買い物支援に参加される人数も増えた。買い物だけではなく、そこでのお互いの交流も楽しみにされており意義があった。

今年は、お一人暮らしの方を訪問した際、転倒や、脱水により救急搬送の必要な場面に遭遇するケースが複数あり、この活動の重要性を痛感した。しかし、法人の貢献活動としての限界もあり、今後、近隣の方々にも協力を得て支援ネットワーク作りの必要性を強く感じた。

（6）活力ある職場作りを目指して

① 職員間の伝達方法の見直しを行なった。職員への伝達事項が全員にきちんと伝わっていないという現状があり、職員からの提案によりメール配信を行うこととした。今後は、もっと頻繁に配信を行い、職員間の連携をもっと密にしていく必要がある。

② 就業規則の変更

健康診断の全額法人負担化、通勤手当の見直し、資格手当の職種の追加など、就業規則の変更を行った。

③ 残業時間等について

今年度の事業計画で残業時間の縮小を挙げていたが、なお帰宅時間が遅くなっている現状がある。今後、業務の見直し、職員体制の見直しなどに取り組み、残業時間の短縮、有給の消化などができるように取り組んでいきたい。育児、介護、傷病による時短については、希望する職員はほぼ取得できている。

職員が元気に生き生きと仕事に取り組める働きやすい職場づくりに取り組んでいく必要がある。

（7）その他 ～ 非常時に備えて

非常時に備え、防火避難訓練をデイサービス金太郎の家、麦の家にて年2回行った。また地震や豪雨などの自然災害を想定した避難訓練も実施した。持ち出し用救急セットの整備、災害時用の食料の備蓄などにも今年度は取り組んだ。

Ⅱ. 各事業の実施状況

1. 法人本部

（1）理事会、評議員会の開催

今年度は4回の理事会と2回の評議員会を開催した。地域に根差した法人活動の展開に向けて、活発な意見交換が行われた。内部監査、監事監査も実施した。理事会、評議員会の開催内容は次のとおりである。

平成 30 年度 理事会

会議名	日時	出席者数	議事
第 1 回理事会	平成 30 年 6 月 1 日 (金) 14 : 00 ~ 17 : 00	理事 7 名 監事 2 名	○平成 29 年度決算報告及び財産目録について ○平成 30 年度第 1 次補正予算 (案) について ○給与規程等の改正について ○平成 30 年度第 1 回評議委員会の招集について
第 2 回理事会	平成 30 年 9 月 3 日 (月) 18 : 00 ~ 20 : 00	理事 7 名 監事 2 名	○経理規程改正 (案) について ○経理規程細則について ○給与規程等改正 (案) について ○中長期計画策定について
第 3 回理事会	平成 30 年 12 月 25 日 (火) 18 : 30 ~ 19 : 00	理事 7 名 監事 2 名	○平成 30 年度第 2 次補正予算について ○経理規程改正 (案) について
第 4 回理事会	平成 31 年 3 月 12 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 30	理事 7 名 監事 2 名	○平成 30 年度第 3 次補正予算 (案) について ○定款変更 (案) について ○経理規程一部改正 (案) について ○経理規程細則一部改正 (案) について ○平成 31 年度事業計画 (案) について ○平成 31 年度当初予算 (案) について ○評議員会の招集について

平成 30 年度 評議員会

会議名	日時	出席者数	議事
第 1 回評議員 会	平成 30 年 6 月 23 日 (土) 16 : 00 ~ 17 : 45	評議員 6 名 監事 1 名	○平成 30 年度事業計画 (案) について ○平成 30 年度予算 (案) について ○平成 29 年度計算書類及び財産目録について ○給与規程等の改正について
第 2 回評議員 会	平成 31 年 3 月 26 日 (火) 18 : 00 ~ 19 : 30	評議員 8 名 監事 2 名	○定款変更 (案) について

(2) 福祉啓発、地域交流事業

①福祉啓発活動として介護の集いを下記のとおり実施した。

	第 1 回:6 月 23 日 (土) 9 : 30 ~ 16 : 00	第 2 回:9 月 8 日 (土) 9 : ~ 12 : 00	第 3 回:3 月 11 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 00
参 加	参加者 12 名 スタッフ 4 名	参加者 150 名	参加者 16 名、 職員 7 名

活動内容	○リフレッシュ旅行 介護家族のリフレッシュと交流を目的に、小旅行に出かける。月照寺参拝～松江城周辺ドライブ～玉造湯神社参拝。参加者同士で会話しながら散策され、初対面の方で連絡先を好感して友達になられた方もあった。	○映画の上映会 荘原コミセンと共催し、認知症介護を題材とした、映画「八重子のハミング」の上映会を行った。予想を上回るにたくさんの方に来場していただき、会場設営に手間取る場面もあったが、地域の皆さんと一緒に認知症のことを考えるいい機会になった。	○手芸、PT よりリハビリ 端切れを使用して、クロモジの香り袋とコースター作りを行った。後半はPTにより立ちやすい介助動作のコツをレクチャーする。和気あいあいとした雰囲気、参加者の交流も深める事ができよかった。
------	---	--	--

②地域交流行事等

福祉啓発、地域交流を目的に、「おちらとウォーキング」「夏休み子どもクリーン活動&交流会」「荘原コミュニティセンター文化祭への参加」、「クリスマスコンサート」等の行事を行った。また、「なごみ会」も2年ぶりに開催した。詳細は下記のとおり。

事業名	開催日	開催場所	対象	参加者数	活動の内容、様子など
おちらとウォーキング	6月5日 (火)	久木ふれあいプラザ～都牟自神社～増光寺～旧豪農屋敷	視覚障がいのある方、ご利用者、地域の方等	参加者 21名 講師1名 ボランティア7名 職員10名	今年も宍道様を講師に迎え、久木方面のウォーキングを実施した。小雨が降っており、コース変更し距離を短縮したが、旧豪農屋敷で史跡講和をゆっくりと聞くことができた。
夏休み子ども交流会	7月11日 (火)	荘原駅第3活動棟	近隣の小学生、金太郎クラブ参加者	小学生13名、 倶楽部12名 ボランティア4名 職員6名	猛暑のため安全を考慮し、ゴミ拾いは中止し荘原駅の清掃のみ実施。出前手話講座として手話通訳の方にお越し頂いた。子どもたちの積極的発言もあり、手話ソングを全員で歌い良い交流になった。
荘原コミセン祭への参加	10月 13,14日	荘原コミュニティセンター	荘原地区の方		ご利用者の作品展示では、男性利用者の方中心に作成したベンチ等を出品し好評だった。バザーでの

					焼きそば販売では、233 食売り上げた。
なごみ会	11 月	出雲空港ホテル	利用者の方、地域の方、金太郎の家に関りのある皆様	利用者 92 名 ご家族 10 名 来賓 7 名 ボランティア 5 名 職員 36 名 合計 150 名	2 年ぶりの開催となり、利用者の方も楽しみにしておられた。利用者の皆さんの発表や職員の出し物を中心として、和やかな雰囲気、すすめられた。会場の都合で利用者の方はデイと集いの場の関係のみだったが、盛会裏に終わった。
クリスマスコンサート	12 月 16 日 (土)	第 4 活動棟	利用者、地域の方々	地域の方々 70 名 ご利用者 16 名	昨年に引き続き山陰フイルの方にお越しいただき、クリスマスコンサートを実施した。予想を大きく上回る 86 名の来場があり、大いに盛り上がった。就労の作業の説明も行い、喫茶コーナーや抽選会も好評だった。

(3) 情報の発信

機関紙「金太郎便り」を年 3 回発行した。フェイスブックでも活動の様子や行事のお知らせ等こまめに発信していった。今後ホームページをもっと見やすく、わかりやすくし、更新のペースも上げていくことが課題である。

(4) 厨房

1. 活動内容

- ・朝のお茶口、昼食、午後のおやつ、配食弁当、遅番夕食、宿泊の夕食の調理、後片付け。
- ・毎月 15 日のお弁当の日、昼クッキング、おやつクッキング準備、実施の補助。
- ・献立作成、食品の発注、食品払い出し簿の記入、衛生管理簿の記入。
- ・検便の実施。

2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・介護保険利用者 25 名、集いの場利用者 5 名～18 名、就労・日中 12 名～18 名、配食弁当は一日 2～3 食、遅番夕食 (水・木) 1 食のご利用があった。昼食は、多い時には 50 食を超える時もあった。

- ・利用者の方によって、食事形態や嗜好のこだわりがあり個々に対応をした。
- ・クッキングの機会は少なくなったが、少人数での配膳や簡単なクッキングを、PTと共に行い、リハビリにもつなげることができた。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

取組み

- ・個々の食事形態、嗜好を考えた食事作り。・食品管理の徹底。衛生的に調理をすること。
- ・午前午後のお茶口作り。・季節感を大切に食事作り。
- ・麦の家厨房での食事作り。

効果

- ・利用者の方の高齢化や体調面で食が細くなり、食べて頂けない事があった。形態の工夫やメニュー自体を変更する事で臨機応変に対応した。デイの職員と情報共有を行い、状況に合わせた食事を提供出来た。
- ・麦の家での調理も始まり、食品管理が二カ所になり大変な面もあるが、当日の担当者が調理の終わりに、残りの食品を確認する事で、発注の重複を避けることが出来た。
- ・衛生面を分科会の議題にあげ、注意する点などを共有した。
- ・お茶口作りでは、季節の煮物や洋菓子に和物のお菓子と、多種類になった。
- ・麦の家での食事作りで、麦の家の御利用者の嗜好を把握する事が出来た。

4. 反省点 課題

- ・ご利用者の嗜好調査を実施したが、チェックが落ちていたり、対応しきれない事もあった。
- ・麦の家での調理時は、別メニューを立てる事を目標にしていたが、難しかった。今後、何度かは別メニューを入れる様にしていきたい。
- ・食品の発注時、食品名を細かく書く、個数とグラムでの注文を考えて行う等しないと、食費に負担がかかる事を実感した。食品の値上がりがあり、今後全てグリーンセンターで発注するのではなく、食品によっては別の店で安く購入する事も考えていきたい。
- ・今後も良いことは継続し、ご利用者に喜んで頂ける食事作りを行っていきたい。

(担当：原 淳子)

2. 老人デイサービス事業

(1) 地域密着型認知症対応型通所介護（予防も含む）さざんか

1. 活動内容

- ・9:15～16:30 を提供時間として、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクレーション、外出等）、入浴、食事やおやつを提供などを行った。
- ・5月には遠足で松江のフォーゲルパークに出かけた。10月にはご希望をお聞きし少人数で、一畑薬師、出雲大社、平田の海で魚釣り、鰐淵寺、堀川遊覧に出かけた。
- ・地域交流として、老人クラブの方からご招待いただき、いりすの丘での餅つきや笹巻づくりに参加。よさこい祭りの観覧、荘原コミセンや合銀荘原支店へ利用者様の作品展示なども行った。ご利用者が作られた布巾を持って荘原保育園を訪問、交流し寄贈した。

- ・季節の行事として、あかつきファーム様からご招待いただき、ブドウ狩りにでかけた。蕎麦打ち、クリスマス会や節分、初詣などの行事も行った。周辺の散歩や外出なども積極的に行っている。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・年間の利用延べ人数は、3,642人（内予防は100人）であった。ほぼ定員に近い利用だったが、冬場はインフルエンザの流行などにより利用が下がった。収入は47,395千円で昨年より2,600千円の増であった。
- ・登録者数は31年3月現在30人、男女比は13：17で、比較的男性の利用が多かった。年齢別では、70歳代が8人、80歳代が6割をしめており、平均年齢は84.4歳であった。
- ・地域別では、斐川町内が83%を占め、旧出雲市内、や旧平田市から来ていただいている方もいる。平均介護度は、2.23である。
- ・ご家庭の都合などで、ご希望の方には延長サービスの提供、夕食も提供している。概ね日々1～2名のご利用があった。

3. 今年度、力を入れて取り組んだこと 効果

- ・認知症が進行し行動障害がみられる方の受け入れも積極的に行った。前頭側頭型認知症で意思の疎通が難しく、異食や職員に手が出る利用者の方の対応について、職員間で話し合い、マンツーマン対応を多くし、落ち着いて過ごしていただけるように取り組んだ。
- ・男性のご利用者が多く、畑での作業や、庭木の剪定、ペンキ塗りなど男性の方が得意とされる活動を意識的に取り入れた。また、ベンチ作りにも挑戦し、立派なベンチが出来上がった。正月準備として、門松作りも行い、皆さんで協力されて立派な門松ができた。ご利用者で元陶芸家の方がおられ、その方に指導していただき、オープン陶土にて皿や箸置き作りを行った。
- ・月一回の分科会にて利用者の方の状態や注意点などを共有した。
- ・環境整備として、活動棟室内のカーペットの張替えと、外壁のペンキの塗替えを行った。机の配置や椅子の置き方などその日の利用者の方が過ごしやすい雰囲気作りに配慮した。

4. 反省点 課題

- ・活動棟の玄関や室内での転倒事故が続いて発生した。歩行状態が不安定な方や、認知症によって危険認識ができない方も多数おられるので、職員間で介助方法を検討し、環境整備も行なって再発防止に努めていかなければならない。
- ・「仕事に来ている」感覚でデイサービスに通ってこられる利用者の方もおられる。仕事として色々な作業も提供し、利用者の方の生きがいや自立につながるようにしていきたい。

（担当：古川容子）

○利用件数（予防含）定員12人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	299	321	310	311	318	300	320	308	300	276	280	299	3642
平均	11.96	11.89	11.92	11.96	11.77	12	11.85	11.8	12	11.5	11.75	11.5	11.75

（2）介護保険 地域密着型通所介護（総合事業含む）やまぶき

1. 活動内容

- ・9:15～16:30 を提供時間として、朝夕の送迎や健康チェック、様々な活動（レクレーション、外出等）、入浴、リハビリ、食事やおやつの提供などを行った。
- ・ケアプランに基づき、個別援助計画を作成しご利用者がその能力に応じて自立した日常生活を営めるよう援助した。定期的及び必要時にモニタリングを行い、計画を見直しご利用者の状況、希望に添ったケアの提供に努めた。
- ・リハビリ的視点に立ち、PT が中心となり生活の活発化に向けた支援を行った。周辺の散歩をはじめ、食事の準備、野菜の下処理、畑での野菜づくりや下肢の筋力の維持、向上の取り組みを実施した。
- ・活動では、脳トレを希望される方も多く、クロスワードや間違い探し等の活動も取り入れ、達成感を感じて頂けるよう配慮した。下肢の筋力維持向上ため、新聞紙、ボール等の道具を使って下肢の運動も行った。
- ・手作業では、毎月のカレンダー制作で紙ちぎりや貼り絵、雑巾縫いまた季節の野菜の下処理やクッキング等を実施し、慣れた手つきで熱心に参加されていた。

2. 利用状況、利用傾向

- ・年間の延べ利用人数は 3,368 人で平均利用人数は 12.68 人であった。1～3 月は寒い時期でもあり体調を崩される方が多く実績が下がった。収入は 38,599 千円で昨年度より 590 千円の減であった。
- ・平均介護度は 1.48 であるが、利用者全体 42 名の内、要支援の方が 10 名、事業対象者の方が 2 名と 3 分の 1 は軽度の方で昨年より増加した。しかし入浴希望者は多く、入浴の加算は無いが殆んどが、入浴されている。また、一週間に 1～2 回の利用や、月に 1～2 回のご利用の方もおられた為、全体の登録者数は多くなった。
- ・男女比では圧倒的に女性が多く 39 人に対して男性は 3 人で前年同様だった。
- ・新規利用者で以前金太郎倶楽部や歌声クラブを利用されていた方が、デイサービスに移られるケースも多くあった。以前からの顔見知りということで、馴染まれる事も早く、安心して過ごされていた。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・身体的に歩行が不安定な方が多く、移動される際に 4 点杖や松葉杖、歩行器（サンフィール）を使用されるため、出来るだけ見守りや付添を行った。遠足や周辺の散歩時も車椅子を使う方が多くなった。
- ・遠足について、今まではその日に来られた方が一斉に出かけていただいていたが、秋の遠足から 4～5 人までのグループ単位での外出に変更した。日にちは多くかかったが、松江の堀川遊覧や魚釣りなど、人数が少ない分より動きやすく利用者の方の希望に沿うことができた。
- ・独居の方で要介護 4 だが在宅での生活を強く希望される方があり、デイサービス、移送サービス、ヘルパーの昼、夜の訪問を入れて対応している。デイ利用日には夕食の配食サービスも利用して頂き、夜の就寝の確認に訪問し、安否確認と施錠を行い、在宅生活が継続出来ている。
- ・時間延長等介護保険外のサービスでは、同居されている娘さんの仕事の都合で夕食を希望され食べて頂いてからお送りしている方もあった。また、家族の急な用事で遅くまでの利用や、早く迎えに来てほしいと言う希望にも対応した。日曜日の有償デイも希望時間に合わせ対応をさせて頂いた。
- ・PT によるマンツーマンのマッサージや対話は非常に喜ばれ、感謝の言葉が多く聞かれた。PT の指

示にてホットパックを実施しているが、希望者がどんどん増えている。

- ・要支援の方がリハビリを希望され、機能向上加算が追加された。個別機能訓練も継続しており狭い空間を上手く活用し実施している。ご利用者も生き生きとされているので引き続き取り組んでいきたい。
- ・今年度は荘原保育園に台拭きを寄贈し、それに合わせて園児さんのよさこい踊りを見せて頂いた。ご利用者の笑顔を沢山見ることができて良かった。次年度も是非継続したい。

4. 反省点 課題

- ・ベッドで午睡を希望される方が多く、限られたスペース内でのベッドの準備や片付けにスタッフの負担が大きくなっている。簡易ベッドでもあり、また毎日動かすため故障をしやすく、注意が必要である。

○利用件数（定員 13 人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	277	297	295	297	304	281	295	273	269	254	255	271	3,368
総合事業	45	52	42	41	40	44	51	49	50	49	47	54	564
平均	12.88	12.92	12.96	13	12.74	13	12.81	12.77	12.76	12.6	12.58	12.5	12.68

（担当：竹内一子）

○延長サービス、宿泊サービス、有償デイサービス 延べ利用件数（さざんか、やまぶき）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延長サービス	18件	31件	20件	7件	7件	12件	22件	27件	36件	26件	34件	29件
宿泊サービス	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
有償デイ	0件	2件	2件	0件	0件	0件	0件	1件	2件	1件	0件	1件

（3）居宅介護支援事業

1. 活動内容

- ・月1回以上自宅を訪問し、ご利用者の生活状況の把握やご本人やご家族の相談に応じた。
- ・新規利用や更新時、プランの変更の必要性が生じた時、ケアプランの作成を行い、サービス担当者会議を開催。毎月モニタリングを実施。
- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。 ・入退院時の医療機関との連携、退院時の支援。
- ・市役所から委託を受けた方の認定調査の実施。
- ・介護保険請求業務。
- ・施設紹介や見学、面談の同行。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・月85名から104名の利用者数で推移する。昨年よりもケース数が38件増加した。月平均は92件。4月から新任のケアマネが入り、新規のケースが増えた。9月には他事業所からの移行に伴い、担当ケース数が増えた。11月にケアマネが増え、5人体制となった。
- ・収入は11,915千円で昨年度より931千円の増であった。
- ・男女比は1対3位。要介護1と要介護2の方が多くを占めている。
- ・新規の依頼に対し、金太郎の家を希望される方はなるべくお断りをせずに受けている為、新規のケー

スが重複し、対応に追われることもあった。

- ・金太郎の家集いの場の利用者の方が介護認定を受けられ、ケアマネの依頼が来るが多かった。集いの場の利用の継続を希望され、デイサービスと併用されているケースが多い。
- ・利用者の方が入院された際、入院期間が短くなっていること等により、退院時すぐに自宅に帰ることが難しい状況から、施設入所を希望されるケースが多くあり、施設探しに追われることも多々あった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・困難事例は一人で抱え込まず、他のケアマネや包括支援センターに相談しながら対応した。
- ・ケアマネの人数の増加に伴い利用者も増えた為、利用者の状況把握が以前と比べて難しくなったが、日誌の活用や状況報告により把握を行った。分科会は全員集まれる日にち・時間で行い、新規や問題のあるケースの話し合いをして共通の認識が持てた。
- ・今までは初回訪問時に一人で訪問することが多かったが、2名で訪問するようにし、状況把握やケースの相談などをしながら支援ができるようにした。担当ケアマネがいない時にも一緒に訪問したケアマネが対応するなど、利用者や家族の方も安心できる体制を取った。
- ・それぞれが関心のあるテーマの研修会に参加し、より知識を深めることができるように努めた。また、分科会において研修報告を行い、研修で学んだことの共有を図った。
- ・入院時連携加算の変更に伴い、3日以内での情報提供を心掛け、入院に際し速やかに病院と情報共有をし、入退院支援がスムーズにできるようにした。

4. 反省点 課題

- ・目の前の問題や書類作成に対応している間に月末になり、書類作成に追われることが多いため、業務の効率化を図る工夫が必要である。
- ・ご本人が望む生活に向けアセスメントし、ご本人の持っている力を引き出すことができる、自立を目指したプランを作成できるよう意識していく。
- ・ケース数が増え、把握が難しい為、担当ケアマネが不在時の対応がうまくできるような方法を検討する必要がある。
- ・独居のケースに対する比重が重く、ケアマネ一人にかかる精神的負担も大きい為、ケアマネ相互や関係事業所との連携を図り、負担を軽減していく必要がある。
- ・安定的な居宅介護支援事業所の運営の為、特定事業所加算の算定に向けて、体制を整えていく。

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
88	91	89	87	90	90	97	99	100	99	105	104	1139

(担当：田中美穂)

(4) 自主デイサービス (集いの場等)

1. 集いの場の活動

地域の高齢者、障がい者を対象に「集いの場」の活動を行った。「金太郎倶楽部」「金太郎大学」「歌う青空の会」「なごみ川柳会」「木曜会」の5グループに分かれ、第3活動棟を使って活動した。毎週火曜日金曜日と隔週の木曜日に開催、年間の延べ開催回数は124回、利用者数は1,422人であった。収

入は2,697千円であり昨年より52千円の減であった。

各グループの活動状況は、下記の通り。

	H30年度集いの場 利用状況											
	歌う青空		木曜会		金太郎大学		川柳		金太郎倶楽部		合計	
	回数	延人数	回数	延人数	回数	延人数	回数	参加者+投句	回数	延人数	延回数	延人数
4月	1	13	2	32	1	15	1	5+4	5	59	10	124
5月	1	14	2	28	1	12	1	5+4	5	58	10	117
6月	1	14	2	29	2	18	1	5+4	6	65	12	131
7月	1	14	2	31	1	14	1	5+5	6	66	11	130
8月	1	12	2	27	1	10	1	5+5	5	56	10	110
9月	1	18	2	29	1	12	1	4+6	5	51	10	114
10月	1	14	2	28	1	11	1	5+5	6	59	11	117
11月	1	14	2	28	1	11	1	5+5	5	50	10	108
12月	1	15	2	28	1	15	1	4+6	5	61	10	123
1月	1	12	2	27	1	12	1	5+6	4	45	9	101
2月	1	17	2	26	1	14	1	4+6	5	55	10	116
3月	1	17	2	24	1	12	1	6+5	6	72	11	131
合計	12	174	24	337	13	156	12	58	63	697	124	1422

ア. 金太郎倶楽部

1. 活動内容

- ・お茶会に始まり、体操・脳トレ・歌等、何より利用者の方から新聞の切り抜きや話題提供等に賑やかに過ごしていただいている。
- ・クッキングや季節を感じる為の外出、月一回ボランティアの方による読み聞かせ。
- ・夏には、清掃活動後の小学生達とのふれあい交流会を行っている。

2. 利用状況・利用傾向

- ・毎回10～15名のご利用があり、皆さん出欠カレンダーを利用しながら、出席される日を決めて下さっている。自分達の倶楽部として、皆さん楽しまれており、新しく参加した方への声掛けもして下さり、良い雰囲気になっている。
- ・年々、高齢化が進んでおり、介助の必要な方も増えてきている。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・ご利用者の高齢化、機能低下が進んでおり、車の乗り降り、トイレの誘導、外出時等事故がないように配慮した。
- ・お一人暮らしの方への声掛け等、安心して生活して頂けるように支援した。

4. 反省点 課題

- ・受け入れ、お茶・食事の準備等、色々な場面でボランティアの方々の目と手を借りることが多く、職

員が責任を持って見守れる体制作りが必要と感じている。

- ・迎え時に、お一人暮らしの利用者の方が倒れておられ、対処に戸惑うことがあった。デイサービスを利用しておられる方も多く、今後一層の情報交換や安心して過ごして頂くための工夫が必要と感じている。

(担当: 嘉藤 敬)

イ. 金太郎大学

1. 活動内容

- ・毎月第4金曜日に開催。
- ・講師として松江市在住の川上茂氏にお願いし、出雲風土記だけではなく、神話や歴史を題材に、幅広く講義いただいている。ご利用者の中からもいろいろな意見や質問が出され活発な会になっている。
- ・年に1~2回は他の講師を依頼しているが、8月24日には、同自治会在住で考古学に精通されている宍道年弘氏にお越しいただき『大井城跡について』と題し、この湯の丘団地開発前に行われた大井城跡の発掘調査についてご講義いただいた。近隣の方も参加され、興味深く聞かれていた。

2. 利用状況・利用傾向・活動の様子

- ・毎月第4金曜日に開催。毎回15名~16名の参加があり、延べ156人のご利用だった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと

- ・講義を聴くだけでなく、質問疑問や受講者からの知識を元に話題を提供してもらい、お互いに討議したり、意見交換をしたりした。和やかな雰囲気の中、活発に意見交換がいき、盛り上がった。
- ・出西コミセン主催で、故池田敏雄先生を偲んでの歴史資料展が開かれ、かつての金太郎大学の写真や、先生からいただいた資料等提供した。

4. 反省点・課題

- ・毎年行ってきた遠足が今年は実施できなかったが、6月に全員で出西コミセンで開催された池田先生の資料展に出かけることができた。展示品を見ながら、先生の在りし日を思い出し懐かしんだ。
- ・年数がたち、参加者の方の機能低下が進んでおり、転倒等の事故がないように配慮が必要である。

(担当: 目黒代志子)

ウ. 歌う青空の会

1. 活動内容

- ・童謡、唱歌については季節感を取り入れた選曲を心掛けている。利用者の皆さんにその月をイメージして頂きながら歌を唄って頂けるように進行した。
- ・伴奏は主としてリコーダーを用いているがアカペラも取り入れている。懐メロについては主として昭和の曲を中心に時代を追いながら選曲している。
- ・今年度は昭和20年代から30年代初期までを取り上げた。また今年度から「私の好きな曲」コーナーを作って利用者の皆さん個人々の好きな曲のリクエストにも応えるようにした。
- ・懐メロについてはプロジェクターを用いて歌手の映像も映し、視覚的にも楽しんでいただいている。

2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・平均利用者数は昨年度と同じ15名/月であったが、登録メンバーは20名を超えるまでになった。延べ利用人数は174人であった。

- ・15名を超えると座るスペースがかなり窮屈になる席次等配慮が必要である。
- ・皆さん「歌の会は楽しみにしている」と言って頂けるようになり、積極的に参加され歌を楽しんでいただいているように感じている。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・ただ歌うだけではない工夫も必要と考え、歌ったり聞いたりする曲については、より興味を持って頂けるようにその曲の背景やエピソード、懐メロについては歌っている歌手のエピソードなども事前に調べて披露するようにしている。
- ・11月のなごみ会では「紅葉」で輪唱にもチャレンジした。皆さん真剣に練習に取り組み、本番では息がぴったり合った歌が披露できた。

4. 反省点 課題

- ・この会を担当して3年が経過するが、メンバーも年齢を重ねられ当初よりADLの低下がみられる方も増えてきている。会の最中はもちろんであるが、送迎時やお茶・食事の時間も含め参加者の体調等にもより注意を払っていききたい。 (担当：足立憲昭)

エ. なごみ川柳会

1. 活動内容

- ・地域の中で、世代間交流しながら川柳作りを楽しむ。
- ・川柳以外に皆さんが興味を持っておられる健康作りや社会時事、人生論について考える機会を持った。
- ・出来た作品を作品集、金太郎便り、山陰中央新報(私の作品コーナー)、出雲川柳会、地域の文化祭に出品し、一般の方々にも発信した。読まれた方々より、励ましの言葉を頂き、意欲が高まった。

2. 利用状況・利用傾向(活動の様子)

- ・毎月第三火曜日。出席会員8名～10名。会員数が少ない状況だが、徐々に参加者が増加し、活気が出てきた。投句会員は4名～6名。延べ利用人数は58名であった。
- ・楽しみながら作句し、批評し合ったり、意見交換したりして交流される場面がみられた。
- ・川柳会が終わると、次の作品作りに意欲的になれる方も多い。又、投句会員の方は、講師の方の講評や出来栄を聞くことを楽しみにしておられる方も多く、熱心さを感じた。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・皆さんに呼び掛けて、文化祭や大会への作品を出品していく事を励みにしてきた。
- ・秋の県民文化祭では、金太郎の家川柳会から四名の方が入選した。
- ・年一回、チューリップ花見や今在家のぶどう狩りの外出を実施し、交流され、楽しまれた。
- ・お茶を飲みながら、川柳に加え、健康作りや社会時事、子孫育、人生論等、様々に話題が広がった。

4. 反省点 課題

- ・これからも、川柳の楽しみを広がるように発信していきたい。
- ・発会より、19年。現在までに会員の方々は、年齢と共にADLの低下がみられる方も増えてきている。川柳会の間や送迎時やお茶・食事の時間も含め参加者の体調等にもより注意を払っていききたい。

(担当：西 博美)

オ. 木曜会(相撲甚句の会)

1. 活動内容

- ・「大笑い」5回、「気合いだ」10回で始め、アアアア発声。全員で「前唄」「後歌」「はやし」を繰り返し、2班に分けてまた唄う。本歌を男性4人がそれぞれ持ち歌を発表し、全員にて「木曜会練成歌」を合唱。
- ・体操、季節のクイズ、新聞記事、利用者の方による健康教室、脳トレ。
- ・午後は、ハーモニカにて同様、懐メロの曲当て他。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・H23年4月に9名で発足したが、本年は18名の大所帯になった。月2回の開催で利用人数は延べ337人となった。皆さん度胸が付き、本番に強くなられた。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・本唄を覚えていただきたく、練成歌に力を入れた。
- ・相撲甚句の新曲発表、懐メロの曲数増加。懐メロの曲あては、皆さんとても楽しみにされている。
- ・利用者のSさんの「呼びあげ」で相撲甚句の効果が上がった。
- ・今年度も施設への訪問を実施した。

4. 反省点 課題

- ・大人数になり、席次に苦労するようになった。座椅子での対応が難しくなってきた。
- ・相撲甚句のレベルに差が出てきた。
- ・視覚障がいの方や、トイレ介助が必要な方への対応が増えてきた。必要に応じて職員を増員したり、職員同士で声を掛け合ったり、ボランティアの方にも協力を得ながら安全を考慮してすすめていく。

(担当：坂本道夫)

3. 訪問介護事業の経営

(1) 介護保険 訪問介護事業

1. 活動内容

- ・身体介護：体調確認、食事服薬の介助、排泄、ポータブルトイレの更新、衣類の着脱、入浴、清拭、通院介助等。
- ・生活援助：調理、買い物、食材等の保存確認、住居の掃除・整理整頓、洗濯、シーツ交換、ベッドメイキング、ごみ出し、体調確認等。
- ・通院等乗降介助：移動、車椅子移乗、乗車・降車。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・高齢化、認知症の進行で自力での生活が難しくなった方からのサービスの追加があった。
- ・夏の猛暑で飼い猫のノミが大発生した訪問先が2件あり、訪問する職員全員がノミ被害に遭った。産業医の金森医師に相談し、ケアマネを通じて本人とご家族の了解を得て、バルサン駆除を行った。
- ・訪問件数は、介護保険が4,147件、総合事業が387件で昨年より247件の減、収入は介護保険13,954千円、総合事業1,229千円で1,457千円の減であった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・分科会、連絡ノート活用での情報共有。日々の訪問での気づきを職員同士、管理者、サービス管理責任者と話し合い、支援のやり方を工夫した。気づきを早い段階でケアマネに報告し、支援内容の変更、改善に繋げる事が出来た。

4. 反省点 課題

- ・決まった時間での訪問が出来ない日があり、利用者に時間、曜日変更のお願いや、調整がつかず訪問を中止させて頂く事もあった。
- ・移送職員不足の為、訪問勤務を調整し、移送業務に出る事が増えた。月末月初等に事務時間が取り難く、内勤業務が滞った。
- ・日々、報告、連絡、相談を行い、利用者の状態悪化防止、改善に繋げていく。

(担当：須谷敦子)

(2) 有償ヘルパー事業

公的サービスで対応できない家事援助や、施設に入所されている方の外出、帰省の支援、県外への旅行の同行、余暇活動など、ご利用者の希望に合わせ幅広い支援を行った。通院時の院内の付き添いなど介護保険サービスと組み合わせて行うケースもあった。利用件数は、年間1,125件、月の平均は93件であった。収入は1,642千円で昨年より107千円の減であった。

デイの職員の協力も得て、独居高齢者宅へ夜間訪問し、安否確認、就寝準備なども行った。在宅生活を継続していく上で、無くてはならないサービスであると考えている。

(担当：須谷敦子)

○訪問介護・有償ヘルパー利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護	359	369	340	319	336	347	369	351	357	332	322	346	4,147
総合	20	21	19	19	17	23	54	38	35	33	47	61	387
有償	83	94	81	84	91	95	93	110	106	97	93	98	1,125

4. 障がい福祉サービス事業

(1) 居宅介護 (障がいヘルパー)

1. 活動内容

- ・自宅へ訪問し、家事援助（調理、掃除、買い物、育児支援等）や身体介護（入浴、共にする家事等）、病院の通院のための車への乗降の介助などを行った。
- ・家事援助は、支援時間 30 分から 2 時間半、身体介護は 30 分から 2 時間のそれぞれニーズに合わせて提供した。通院介助は、病院の中での介助が必要な方については付き添いもした。

2. 利用状況・利用傾向 (活動の様子)

- ・相談支援専門員の計画書に基づき、個別支援計画を作成し、決められた時間、必要な内容を提供した。
- ・家事援助は、希望としては掃除が多くあり、身体も共にする掃除が多くあった。
- ・利用件数は、1,045 件で、昨年に比べ 374 件の減、877 千円の減となった。訪問介護職員の不足が大きな原因といえる。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・相談支援専門員と連携をして、状態に変化がある場合はすぐに報告し、対応をして頂いた。
- ・利用者の方の支援会議を通して必要な情報を共有出来る機会が多く、訪問介護での関わりだけでなく全体像を見ることが出来、自立へ向けた支援を心がけた。
- ・ノート等を活用してヘルパー間の情報共有に務めた。
- ・予定変更の際は連絡を早めに行い、了解を得た。

4. 反省点 課題

- ・訪問予定時刻に訪問出来ず、訪問時間の変更をお願いすることもあった。
- ・サービス内容について思い違いがあり、要望もあった。サービスの提供を開始する前の内容の確認や、モニタリング、支援会議など区切りを大切にし、都度見直して利用者の方に説明をし、より利用者の希望に沿った最良の内容を提供出来るようにしていかなければならない。

(管理者：竹内淳子)

(2) 移動支援

1. 活動内容

- ・通学移動支援では、有償運送車両を使用し出雲養護学校に通学の付添い個別支援（ヘルパー1名に対し利用者1名）とグループ支援（ヘルパー1名に対し利用者2～3名）と、徒歩にて登校時の付き添いを行った。
- ・自宅から福祉施設への送迎など通院以外の目的での移動支援も行った。
- ・休日の余暇活動、買い物、スポーツなど外出の付添いも行った。30分の買い物から旅行の付き添いまで様々なニーズがあった。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・8歳から70歳代、毎日から数か月に1回利用と幅広い利用の方がおられ、上記の希望の内容も様々で利用者のニーズに合わせての支援を行った。
- ・支援会議において利用者の方の様子など報告し、相談支援専門員との連携を密にとった。
- ・利用件数は、1,573件と昨年より361件、約1,000千円の減であった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・利用者の状況に変化があった場合、その都度報告を受け問題解決出来る様職員間で話し合いを行った。
- ・職員間で、個別の支援の手順や方針などの情報共有を出来る限り行った。

4. 反省点 課題

- ・記録の書き方がより具体的でない場合もあり、分かりやすく記述する方法を伝達したり、記入しやすい記録用紙の作成を検討する必要があるがあった。手順書など統一した支援ができる書類作成を心がけたい。
- ・ヘルパー人員が確保できず、時間帯によっては新規を断ることもあった。
- ・交通状況により、予定時刻に到着できない時もあった。

(3) 同行援護

1. 活動内容

- ・視覚障害のある方を対象に、利用者の方の要望に合わせて外出の支援を行った。
- ・買い物、ジムトレーニング、カラオケ、墓参り、温泉、金太郎クラブ参加など付添を行い、視覚情報の伝達等、安全面に考慮して行った。
- ・JRやバスなど、自家用自動車有償運送の車両での外出もあった。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・定期利用8名。時間は、10時から17時まで支援時間1時間から6時間と希望に合わせた内容を実施。
- ・視覚情報の声掛け、安全に出来る様にした。トイレでの介助や食事の介助は希望に添った支援を心掛けた。
- ・年間の利用件数は、年間87件で、昨年と比較し2倍近い利用があり、収入も500千円の増となった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・利用者の安全を考え、的確に視覚情報を伝えることが出来た。
- ・出来るだけ、ご希望に添った支援を心がけた。
- ・今年度、同行援護従事者研修を新たに2名受講した。

4. 反省点 課題

- ・支援の日にちの連絡が遅くなり、ご利用者の方より催促の連絡があった。今後は予定の連絡を早めに行っていきたい。

○障がい福祉サービス利用延人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	106	111	120	117	122	115	94	73	90	68	69	67	1,045
同行援護	13	8	7	7	8	7	8	8	8	5	2	6	87
移動支援	135	153	145	131	68	135	158	151	115	131	127	124	1,573

(担当：竹内淳子)

5. 麦の家 障がいデイサービス事業

(1) 就労継続支援B型

1. 活動内容

- ・地域で生活されている障がい者の方に社会的自立を目的とした作業活動や生活支援の提供を行う。

○作業内容

- ・施設外就労…出雲空港公園トイレ清掃、直江駅トイレ清掃、いりすの丘工房・トイレ清掃、今岡ファーム（ネギ抜き、ネギ箱作り）、民家等の草取り、空き缶つぶし、畑にて野菜・豆栽培・収穫。
- ・内職…袋詰め、シール貼り、カップ作業、あて名書き、自動車部品組立、マーカー組立
- ・オリジナル商品…姫茶、命茶、クロモジの湯(入浴剤)、こんにゃく販売
- ・黒米選別、極小黒豆の選別、袋詰め

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・年度初めは在籍数21名で、7月頃より新規利用者が少しずつ増え、途中5名が退所されたものの、3月末には23名の在籍となった。のべ利用人数は3,016人で昨年度より328人の増、収入は20,724千円で3,520千円の増であった。

- ・退所者 5 名の理由の内訳：施設入所 1 名、就労 B 型での作業が難しかった方 2 名、コミュニケーション問題 1 名、工賃への不満等 1 名。障害種別としてはほとんどが精神面の障がいを抱えた方であった。
- ・新規利用者の内訳：他事業者からの移行が 2 名、病気により一般就労から就労 B 型を利用されるようになった方が 3 名、出雲養護学校の新卒者が 2 名。新卒者が初々しく社会人 1 年生としてスタートし、若々しい雰囲気は他の利用者の方たちにとっても新鮮でよい刺激となっている。
- ・年間の利用延べ人数 3,016 人、利用収入 20,724 千円で、昨年と比較し 328 人、3,520 千円の増だった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・賃金アップが第一の課題であったが、就労支援経験豊富な職員を中心としてより高い工賃を得られる作業の開拓を求めた結果、自動車部品の一部を請け負うことが出来、丁寧な作業と納期を守ることで信頼を得、仕事量も増えてきた。メーカー組立も皆さんが出来る作業として取り組むことができた。成果として目標であった平均工賃が 5,000 円に達したことは嬉しい限りである。
- ・自社ブランドとして売り出した姫茶の販売先も出雲空港を中心として十数か所と拡大した上に、今年はクロモジの効能が話題となり、売り上げを伸ばしてきた。また新たにアマチャヅルをブレンドした命茶も販売することができた。
- ・個々の利用者の方に合わせた声掛けやアドバイス、作業手順の適材適所での作業の分担などで、全体的に利用者の方の作業能力や効率が上げることができた。

4. 反省点 課題

- ・長時間椅子に座っての作業が主なので、体操はもちろんのこと、疲れにくく負担の少ない椅子やクッション等の使用など少しずつ変えていく必要がある。
- ・利用者間でのコミュニケーションのあり方や職員の言葉遣い等で、特にメンタル面で敏感な方達に対してはより一層の細やかな配慮が必要であり、思いを共有し一緒に添って行く姿勢がますます求められていく。
- ・お茶の原材料を確保するのに、今年度はかなり力を入れたつもりだったが、次の収穫までつなぐことが難しい状況になってきているため、常に安定した商品が提供できるよう次年度にはさらにしっかりと収穫しておきたい。またコスト面での見直し、味の追求や新商品の開発等に力を入れる必要がある。
- ・クロモジはお茶の材料としては細枝のみを利用しているが、太枝や葉も含め捨てる場所がないほどに商品価値があるので、すべてを有効活用できるように多彩な商品化を考え販売を目指していく。

○利用件数 定員 10 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	218	221	194	232	252	263	289	278	267	258	261	283	3,016
平均	8.72	8.19	7.46	8.92	9.33	10.52	10.70	10.69	10.68	10.75	11	10.88	9.79

(担当：阿食羊志子)

(2) 生活介護

1. 活動内容

- ・一人ひとりの特性に応じた今までの生活スタイルを大切にしながら、必要に応じた介助を行い、無理なく安心して過ごして頂く場を提供する。

- ・一人一人の持てる力、能力を生かした活動や個々の希望メニューを取り入れながら、心身の活性化を図る。
- ・活動…作業、散歩、ドライブ、買い物、作品制作、音楽鑑賞、習字
- ・介助…食事、入浴、排せつ ・PTによるリハビリ

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・昨年の2月からスタートして1年余りが過ぎ、利用者の在籍数は14名と倍増したが、そのうち平日利用者は8名、土曜・祝日のみの利用者が5名となっていて、曜日によっての利用者数にかなりのばらつきがある。
- ・障害区分としては、土曜日に区分5～6の方が集中し、マンツーマン対応の方が多くみられる。
- ・活動内容としては、半数の方が作業をされ、その他は制作活動や散歩、ドライブ等の外出などである。入浴希望が2名、リハビリを1名受けられている。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・一人一人の持てる力、特技、特性を生かした作品作りを行い、展示することで他の利用者の方々にも喜ばれ、認められたことにより、生き生きと活動に取り組まれていた。
筆談⇒習字 かみちぎりへのこだわり⇒季節ごとの壁面制作など
- ・利用者の方の特性を職員全員がきちんと理解し、安心して気持ちよく過ごして頂けるよう連絡ノートを活用したり、終礼時には問題点について振り返りを行い次のステップにつなげられるようにした。

4. 反省点 課題

- ・落ち着いた環境と細やかな配慮という点では少しずつ評価をいただくようになってきたが、日々の利用者数がまだまだ定員に達しておらず、新規利用者の拡大に向けて積極的な活動が必要である。
- ・マンツーマン対応が必要な方について、安心して落ち着いて過ごして頂く中で、活動内容によってはグループ化していくことを考えていかなければならない。
- ・障害の特性をしっかりと理解、共有したうえで、一人ひとりの人生の在り方にも目を向けながら、QOLの向上に向けて長期的に見据えていかなければならないと思う。

○利用件数 定員 10人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	79	81	95	86	87	99	101	103	94	107	92	92	1,116
平均	3.16	3	3.65	3.31	3.22	3.96	3.74	3.96	3.76	4.46	4	3.54	3.62

(担当：阿食羊志子)

6. 福祉移送（福祉タクシー、有償運送）

1. 活動内容

- ・福祉タクシー（4条）：2種免許を取得した運転士が車椅子を使用されている方や障がいのある方、内部疾患のある方の外出や通院のサポートを行った。
- ・有償運送（78条）：ヘルパー2級及び介護職員初任者研修受講修了者が、運転者講習を受講し、陸運局の許可を得て、訪問介護事業の通院等乗降介助、移動支援、居宅介護の通院乗降介助、同行援護等と組み合わせた移送を行った。定期利用の方や事前に予約を頂いて利用される方が多いが、急な依頼

にもできる限り対応させて頂いた。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・出雲市や松江市の発行するタクシーチケットにも対応し、殆どの方が予約して頂いてのご利用だったが、当日の依頼にもでき得る限り対応させて頂いた。施設入所されている方の外出や通院、入退院の依頼も多くあった。
- ・安全運転を心掛け、また人に優しい運転、横断歩道を渡ろうとされている方や雨の日の歩行者等への配慮を継続していく。
- ・利用件数は、有償運送が3,745件、介護タクシー部門が1,122件で、384件の減、特に有償運送の減少が大きく、553千円の減収となった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・安全運転を常に心掛け業務に取り組んだ。
- ・依頼に漏れのないような体制を心掛けた。また、予約時間に遅れることのないよう、交通事情の報告等を共有した。前の付添が長引いたため次の移送に遅れそうな場合など早めに事務所に連絡を入れ、他の職員が代わりに向かう等できるだけ利用者の方にご迷惑をかけないように努めた。
- ・付添の依頼も多く、ケアマネや家族と連携し、ご利用者の方の様子を書面にしてもらったものを持参して対応するようにした。
- ・車内清掃を全職員が心掛け、利用者の皆様に気持ちよく乗っていただけるよう出発前や帰所時にはマットの泥を払うようにした。
- ・迅速なタイヤ交換を行った。

4. 反省点 課題

- ・安全運転に関する情報をもっと全職員に発信したかったが、なかなか出来なかった。
- ・車両に軽微な傷がついていることがあった。報告のないものもあり、車両の点検と報告の徹底を全職員に再度周知していく。
- ・研修に積極的に参加し、介護技術の向上や病気や障がいに対する理解を深め、より質の高いサービスが提供できるよう努めていく。

(担当：森山幾美)

○利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4条 (福祉 タクシー)	102	99	106	82	88	83	115	106	90	95	71	85	1,122
78条 (有 償運送)	297	322	307	270	231	340	349	355	323	326	295	330	3,745

7. 障がい者相談支援事業

1. 活動内容

- ・新規、更新時、プラン変更の必要性が生じた時、サービス等利用計画を作成し、支援会議を開催。
- ・モニタリングの実施。

- ・行政及び各機関、事業所との連絡調整。毎月のサービス調整会議の出席。
- ・市役所から委託を受けた方の認定調査の実施。 ・ 請求業務

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・平成30年3月から事業を開始。徐々にケースが増え、現在は11件担当している。
- ・障害種別：身体障害…3名、知的障害…2名、精神障害…6名
- ・男性8名、女性3名。 ・ 認定調査…3件実施
- ・全員在宅生活をしておられる方。就労系のサービス利用が7件、居宅介護（ヘルパー）利用が4件
- ・小境町、大社、松寄下、稗原、古曾志（松江）など遠方の方が多いが、サービスの利用調整時や特変時などはこまめに訪問している。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・障害のサービスや制度の仕組みについて、わからないことも多く、障がい福祉や相談支援の研修には積極的に出かけ、勉強させていただいた。サービス調整会議や人材育成研修などでは、アセスメントの深め方を中心に、主にグループワークを通して考え方の基本や面接技術なども学ぶことができた。
- ・分からないことや行き詰る事があれば、他事業所の相談員の方などに相談しながら取り組んだ。
- ・11月より2人体制になり、相談しあいながら進める事ができた。
- ・請求事務や書類作成なども、不備がないかを確認しながら、期日に間に合うように早めに提出するように心がけた。

4. 反省点 課題

- ・利用者の方から事業所や施設、病院、あるいは利用できる制度について情報提供を求められた際、自分が持っている知識や情報が少ないため、すぐにお答えすることができないことが多かった。今後もしっかりとたくさんの情報や知識を蓄えるようにしていきたい。
- ・サービス等利用計画を立てる際、どうしても福祉サービスのみの組み立てで終わってしまうことが多いが、福祉サービスのみでなく地域資源の活用や開発の重要性について様々な研修で触れられており、今後はそうした視点も踏まえながら取り組んでいきたい。
- ・精神障害の方の対応や、一人暮らしの方の今後の生活の支援について、自分一人では行き詰ってしまうことが多い。今後も色々な方にアドバイスをいただきながら、利用者の方を支援する様々な事業所の方とチームを組んですすめていきたい。 (担当：農間玲美)

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	2	3	3	4	6	5	6	6	9	11	11	61

[公益事業]

1. 障がい者地域生活支援事業

(1) 日中一時支援事業

1. 活動内容

- ・利用者家族の要望に応じた利用時間の受け入れと、安心して過ごせる場の提供を行った。

2. 利用状況・利用傾向（活動の様子）

- ・年間を通しての利用者（児）は14名で、その内毎週利用される方が4名、他の方は単発的に利用されていた。小中学校及び出雲養護学校高等部の生徒等の放課後利用や、土曜日、祝日、長期休み期間中の利用があり、個々に応じた学習指導や自由遊びの見守り、外出など行った。
- ・他事業所の就労B型、生活介護を利用された後の居場所として利用されたり、麦の家で就労B型、生活介護を利用されている方で、利用日数が超える場合に日中一時支援を利用される方もいた。
- ・延べ利用人数は、1,162人で168人の増、収入は3,804千円で469千円の増であった。

3. 今年度力を入れて取り組んだこと 効果

- ・日中一時対応の専門スタッフを配置することで、平日の受け入れ態勢が整い、利用児童の特性を踏まえながらじっくりと対応することができた。

4. 反省点 課題

- ・土曜日、祝日、夏休み等の長期休みの利用日は生活介護の方と一緒にすることが多く、障がいの特性によっては一緒に活動が出来ず、マンツーマン対応を求められることも多々あり、職員体制に厳しいものがあつた。

5. その他

- ・麦の家の就労B型、生活介護を利用されるにあたり、もしもに備えて日中一時支援の契約をされる方が多く、障害を持たれている家族の方にとってはとても必要なサービスとなっている。

（担当：阿食羊志子）

○利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
109	117	115	119	117	93	100	93	82	70	65	82	1,162